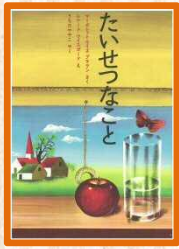


# 大好き!絵本

初瀬 恵美



『たいせつなこと』

作:マーガレット・ワイス・ブラウン

絵:レナード・ワイスガード

訳:うちだ ややこ

出版社:フレーベル館

つくしさんの卒園まであと1か月となりました。毎年3月の「からたちだより」は、卒園する子どもたちの心に残る一冊をテーマに絵本を選んで、紹介しています。今年も素敵な絵本を紹介させていただきます。

『たいせつなこと』(『The Important Book』)この絵本は1949年にアメリカで出版されました。日本ではそれから半世紀以上たった2001年に初めて翻訳されて、出版されました。長い間親しまれてきたこの絵本の魅力は、読んだときに初めて出会う感動の大きさだと思えます。

この絵本は、身近なものに焦点をあて、そのものにとって大切なことは何かを伝えてくれています。例えばコオロギ、グラス、りんご、空…そして「あなた」です。

どんな風に書かれているかというたとえば「くさは みどり くさは おおきく のびて あまく あおい において やさしく つつみこんで

おおきくのびて あまく あおい において やさしく つつみこんでくれる でも くさにとって たいせつなのは かがやく みどりで あること」というように書かれていますこの「甘く 青い 匂いで 優しく 包み込んでくれる」という表現が私は大好きです。幼い頃、自然の中で遊びまわった記憶とともに、その香りがよみがえり、懐かしい気持ちにさせてくれる一文です。この文以外にも作者はとても、豊かな感性をもって、詩的な表現を散りばめてくれています。そして、ここでは「草にとって、大切なものは、輝く緑であること」と締められているように、毎回「あるがまま」の姿が大切なことと結んでいるように感じます。

また、絵本の終わりには「あなた」にとって大切なことも書かれています。あなたなら、「あなたにとって大切なこと」は何だと思いますか？絵本では「あなたは あなた…略…でも あなたにとって たいせつなのは あなたが あなたで あること」と書かれています。やはり「あるがままがいい」という大切なことをメッセージとしてしっかり伝えてくれている絵本なのです。

「あるがままがいい」ということを実感するには、それなりの体験が必要で子ども時代、時が経つのを忘れて、思いっきり遊ぶ時間を保障することが大人にとっての重要な役割の一つであることも気づかれました。遊ぶ中での、友達とのやりとり、葛藤、思いやりの心、自然から得る五感を伴う心地よい記憶…等無数の得るものがあります。また、それを見守ったり、共感する大人のあたたかさも大切だと思います。残り1か月、保育園が大切にしたいことの一つは、学校に行くと大幅に減ってしまう「子どもが子どもらしくある時間」を保障し、豊かな感性を育む時間・空間・仲間を保障することだと思いました。そして「私(子ども達自身)」がかけがえのない存在であるということをいっぱい感じてほしいです。絵本同様、「たいせつなこと」をしっかり伝えられる保育園でありたいです。

